



誤解されている犬

私の相棒の犬たちは、現在4頭です。その中で一番若いロングコートチワワの2歳の女の子のウィッシュは、神戸動物管理センターから救い出したワンコです。彼女は、お医者さんから「犬を飼えば癒されるよ。」と言われて車椅子生活の方が飼っていましたが、でも、小さいのに大型犬並みに散歩がいり、とても甘えん坊でスキンシップを欲しがりますが、怖がりでパニックになりやすく、パニックになると手当たり次第に咬みつくワンコでした。おかげで飼い主が入院することになり、保健所に捨てられたのです。

セラピーに使える犬の条件として

1. 人に対してフレンドリーであること。
2. 環境に対して受け入れが良いこと。
3. コントロールが可能であること。

と言われています。けれども、もっと大切なことを見過ごしている人が多いのです。これは、セラピー犬だけに限らず、どんな犬についても言えることですが、犬に癒してもらうには、犬を癒してあげていなければなりません。つまり、精神的、肉体的に安定していなければ、人が癒されることはないのです。「愛して欲しければ、まず相手を愛すること」と言われるように犬から癒されたいなら犬を癒すこと、すなわち精神的、肉体的に安定させるためにどれだけ努力できるかなのです。犬の福祉を考える必要があります。生活環境を整え、心を通わすコミュニケーションをとり、犬の理解を考えたトレーニングをすることが重要なのだと思います。「家族の一員として」と犬の癒し効果を期待して犬を飼い、きちんと世話ができず問題を抱えている飼い主さんが増えています。単に犬に癒されたいから犬を飼うという誤解がセラピー犬に悪い影響を与えないように祈るばかりです。

家庭犬訓練士、マイドッグトレーニングスクール 笠木忠子氏 略歴

- ・ J A H A 認定家庭犬しつけインストラクター
- ・ 優良家庭犬認定試験公認ジャッジ
- ・ 元 J K C 公認訓練士
- ・ 元 愛犬協会の公認訓練士
- ・ 神戸市動物愛護推進委員
- ・ 各地の行政、各種動物関連団体や飼い主グループの要請でしつけ教室やセミナー講師として活動する
- ・ 岡山理科大学専門学校の非常勤講師を務める
- ・ 動物福祉講座やインストラクター養成講座等も随時開催

寄付活動 FUND-RAISING ACTIVITIES

今年1月11日に芦屋ラポルテホールにて開催された『佐良直美氏★講演会』に参加させていただきました。



左記でコメントをしていただきました笠木先生のご紹介で、ブースを用意していただき、活動内容の説明、本の販売、募金活動などを行わせていただきました。



多くの皆様が足を止めてくださり、中にはセラピーに関して質問をしてくださる方もおられました。

また、募金にも多くの方がご協力してくださいました。ありがとうございました。



今後も、セラピードッグを一人でも多くの方に知っていただくために、色々な講演会や、活動に参加していきたいと思っております。



ドッグセラピー交流会

SPREAD OF DOG THERAPY

犬と人間の絆

去年11月11日(日)、第3回ドッグセラピー交流会を高松アクティブホームにて開催しました。

前半は、参加者様と色々な情報交換とオリエンテーション、理事長 生長豊健より、ドッグセラピーの現状・メカニズム、そして新たな取り組みに関して講義していただきました。

セラピー風景のVTRを交えながらの説明に参加者からは、「具体的な内容がわかり、参考になった。」「あきらめない!!という今後への意欲が印象的だった。」等の感想をいただきました。



理事長 講義風景

後半には、ベッドや車椅子を使用しセラピーの疑似体験を行いました。今回は、色々な角度からの観察、感情を感じてもらえるよう、利用者役、セラピスト役になり、実際にセラピーをどのように行っていくのか各々で考え、実践してもらいました。

皆さん悩み、知恵を出し合い、試行錯誤しながら、それぞれのセラピーを楽しんでおられました。



車椅子でのセラピー風景



ベッドマナー体験

次回交流会は5月19日です。



トレーニング

☆ルアーを使ったトレーニング☆

リードを引っ張ることでドッグの行動をコントロールすることは、ドッグに嫌悪感やストレスを与えます。そのため、ルアー(その子が好きなおもちゃ、おやつ等)を使い行動を作ること、望ましい行動を伝えます。ドッグは、頭をコントロールすることで行動をコントロールすることが出来ます。ルアーで頭を誘導することで、してほしい行動を引き出します。ここでは、ハンドターゲットというルアーを応用して、手に反応させる形でトレーニングを行っています。

まずは基本訓練の「おすわり=Sit」の簡単なトレーニング方法を紹介します。

おすわり

鼻先に手を持って行き
手に集中させる



その手を頭上に持って行く



手を追ってドッグの頭が上を向き、(このタイミングで「おすわり」と声掛け)自然とお尻が床につく「行動」



褒める「ご褒美」



「行動とご褒美」が関連付き、ドッグが行動を理解できるようになれば第1段階は終了です。そして次は、行動を起こす前に「おすわり」の言葉をかけ、ドッグが「言葉・行動・ご褒美」を結びつけることが出来るように何回もトレーニングを重ね、完了になります。

〈お問い合わせ〉

有限会社かりゆし ドッグセラピー事業部

〒701-1333 岡山県岡山市北区立田587番地
TEL.086-905-0111(直通) FAX.086-287-8261
E-mail. dog_therapy@ikenaga-group.jp

<http://www.therapydog.jp>

